

多発性骨髄腫およびALアミロイドーシスの自家末梢血造血幹細胞移植症例における 栄養状態と合併症についての後ろ向き研究

・臨床研究について

当院では最新の治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。本臨床研究は当院の臨床研究倫理委員会で審査を受け、承認を得ています。

・臨床研究の目的・意義

多発性骨髄腫・ALアミロイドーシスの治療において、自家末梢血造血幹細胞移植は予後を改善させる極めて重要な治療です。この末梢血造血幹細胞移植では、栄養状態が一時的ですが不良となることが度々あり、合併症をおこす一因となります。

本臨床研究では自家末梢血造血幹細胞移植症例の栄養状態と入院中の合併症について後ろ向きに調査します。

・臨床研究の方法

本研究は後ろ向き観察研究です。すでに多発性骨髄腫またはALアミロイドーシスと診断されている症例で2007年1月から2017年9月までに当院で自家移植を行った方を対象とします。過去2017年9月までの臨床情報を診療録より抽出し調査を行います。

・個人情報の保護について

解析結果は個人に関わる重要な情報ですので、他人に漏れることのないように厳重に管理されます。あなたの血液などの試料や診療情報は、分析を行う前に、住所、電話番号、氏名、生年月日、カルテ番号など、あなた個人を特定できる情報をけずり、かわりに新しく番号をつけます。これを『匿名化』と呼び、日本赤十字社医療センター血液内科において『個人情報管理者』として指名された者が責任をもって行います。この番号とあなたとを結びつける対応表は、『個人情報管理者』が厳重に管理します。本研究の学会発表、論文報告においても個人を特定できる情報は一切公開されません。

研究参加に同意されない場合は、下記担当へご連絡ください。

・研究機関

日本赤十字社医療センター 血液内科 鈴木憲史 宮崎寛至
〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 電話 03-3400-1311(代表)